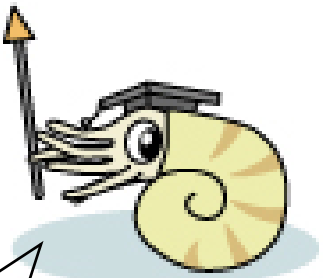




てんじしつ 展示室クイズ

ぜんもんせいがい 全問正解でガーネットカードプレゼント!!

★ 印がある場所に展示してある化石や生き物は何だろう？正解の()に○をつけよう。



せかい 世界の〇〇が展示してあるよ。
 () バッタ () チョウ

ウサギやネズミをつかまえる大きな鳥は？
 () ワシやタカのなかま
 () カラスのなかま

なん どの道具かな？
 () 昔の壺や皿 () 昔のかご

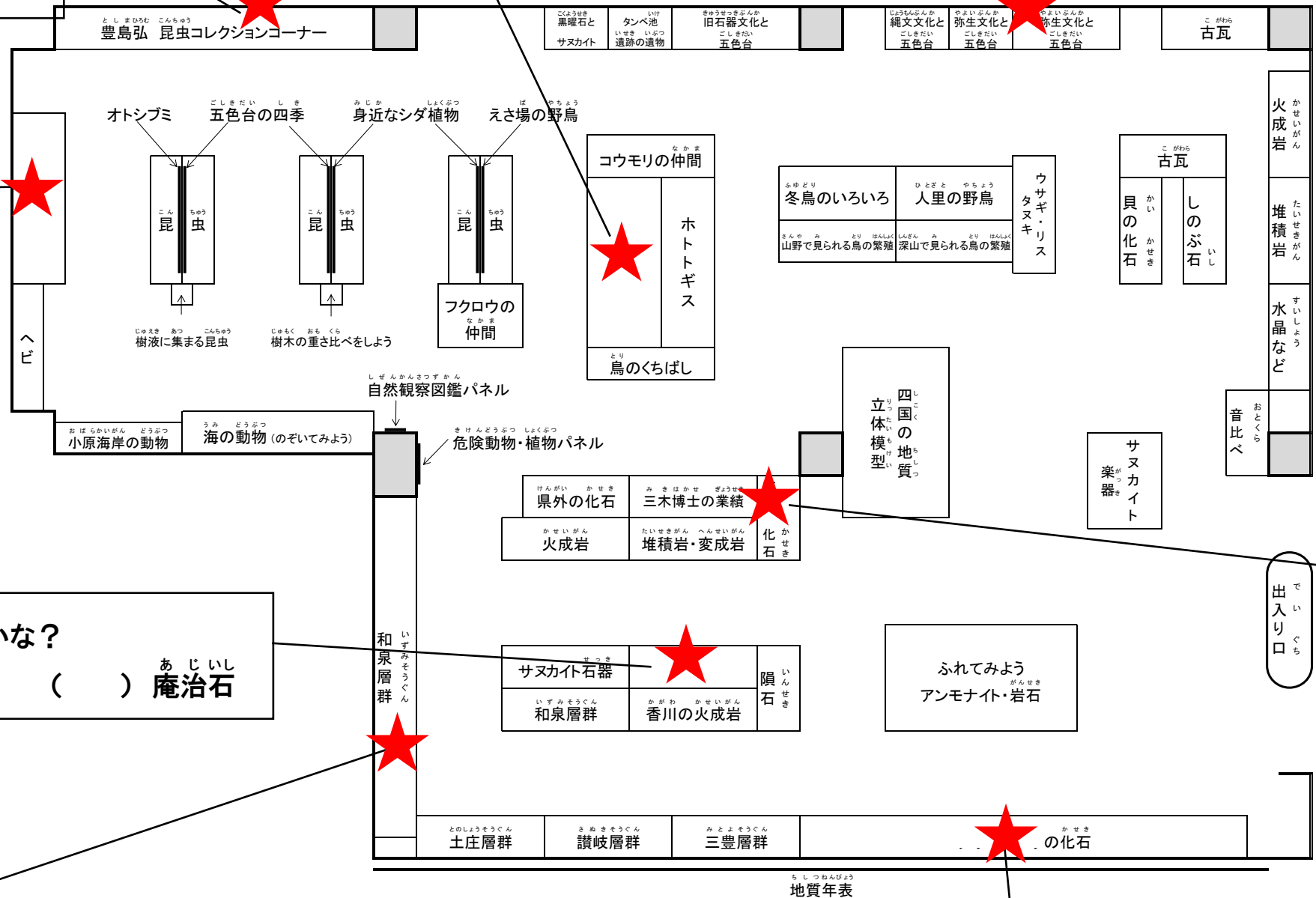
ガーネット(ざくろ石)は1月の誕生石なんだよ。
 「勝利の石」とも呼ばれ、難しいことにもチャレンジして、乗り越えられるように力を貸してくれると言われているんだ。

きけん い 危険な生き物の名前は何？
 () ケムシ
 () スズメバチ

なん 何という名前の石かな？
 () サヌカイト () 庵治石

なん 何の化石かな？
 () 大昔のタコ () アンモナイト

なん 何の化石かな？
 () ナウマンゾウ () ティラノサウルス



生物領域

豊島弘 昆虫コレクション

豊島弘氏が採集した昆虫標本(約 68,000 点)の一部を展示しています。香川県内では絶滅した種や絶滅が危惧される種の標本もあります。香川県レッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅰ類に位置づけられている、タガメ・ルイスハンミョウ・オオウラギンヒョウモンの標本を展示しています。

スズメバチ

スズメバチは、非常に攻撃性の高いハチです。10m以内に近づくと警戒行動を取り、接近者の周りを飛び回ります。その際、「カチカチ」という警戒音を鳴らします。その際に驚いて、大声を出したり手で振り払ったりすると、敵だと認識されて攻撃してきます。場合によっては、巣から数十匹ものスズメバチが飛んでくることもあります。

スズメバチは、黒くて動くものを狙う習性があるため、自然の中を歩くときには白っぽい服装が望ましいです。また、スズメバチに遭遇した場合は、静かにその場を立ち去るようにしましょう。

ワシやタカのなかま

ワシやタカのなかまは猛禽類と呼ばれ、鋭い爪とくちばしをもっていて、ネズミやリス、野ウサギなどを捕まえて食べます。日本で一番大きな猛禽類はオオワシで、全長 100cm、羽を広げると 240cm にもなります。上空で、くるくる回りながら獲物を探し、獲物を見つけると時速 80km ものスピードで捕まえます。

ホトトギス

全長 28cm ほどで灰色の鳥です。渡り鳥ですが、香川県で繁殖し広く生息していることから、香川県の県鳥に指定されています。ホトトギスは、ウグイスの巣に卵を産み、ウグイスに育ててもらって託卵という方法をとります。ホトトギスは「キョキョキョキョキョ…」と大きな声で鳴くので、古くから人々に知られている鳥です。そのため、ホトトギスの和歌が数多く詠まれています。

地学領域

アンモナイト

古生代シルル紀末期から中生代白亜紀末までのおよそ 3 億 5,000 万年前後の間を、世界に広く分布し繁栄した示準化石です。すべての種類が、平らな巻き貝の殻をもっています。殻の直径で数センチから十数センチメートル程度のものが多いですが、直径 2m に達するものも存在しました。

ナウマンゾウ

約 40 万年前～約 2 万年前まで生息していたゾウで、寒冷な気候に適応するため、全身が毛に被われていたと考えられています。ナウマンゾウは、ドイツ人のナウマン博士にちなんで命名されました。瀬戸内海でも多くの化石が見つかっています。

サヌカイト

サヌカイトは、五色台周辺や大阪と奈良の境の二上山周辺でしか採集できない貴重な石です。たたくと高く澄んだ音がするので「カンカン石」とも呼ばれています。ドイツ人のヴァインシェンクによって、讃岐の石という意味で命名されました。サヌカイトは 1964 年の東京オリンピックの開会式でも開始の合図として使用されたようです。

世界最古のナマズ

雨滝山(さぬき市大川町)化石層から採取した魚の化石が世界最古のナマズ科の化石であることが発表されました。このナマズの化石は、全長 9.25メートル、大きくて丸みを帯びた頭部、ナマズ科に特徴的な内耳と浮袋を連結するウェバー器官のほか、52、3本の脊椎骨数など、ナマズ科の魚類がもつ形質を備えています。

人文領域

土器

土で形を作り、火で焼いた器のことです。約 1 万年前ごろから使用され、食器や調理道具、保存するための器などの役割があります。表面に縄目の文様がある縄文土器や高温で焼くことで厚さが薄くなった弥生土器などがあります。

瓦

古代寺院の屋根は、すべて本瓦葺によってつくられています。本瓦葺は 6 世紀の終わりに大陸から伝えられたものです。寺院の瓦には、蓮華文や巴文などがあり、それぞれに意味があります。

石器

約 1 万年前ごろの人々は、石をたたいたり削ったりして、生活に必要な道具をつくっていました。獲物を捕らえる道具(尖頭器や石鏃)やものを切ったり、突き刺したりするためのナイフ型石器などです。その多くはサヌカイトのような硬い石が使われています。